

The Emerging Market Weekly

国際為替部

マーケット・エコノミスト

佐々木 貴彦

03-3242-7065

takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト

多田出 健太

03-3242-7065

kenta.tadaide@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

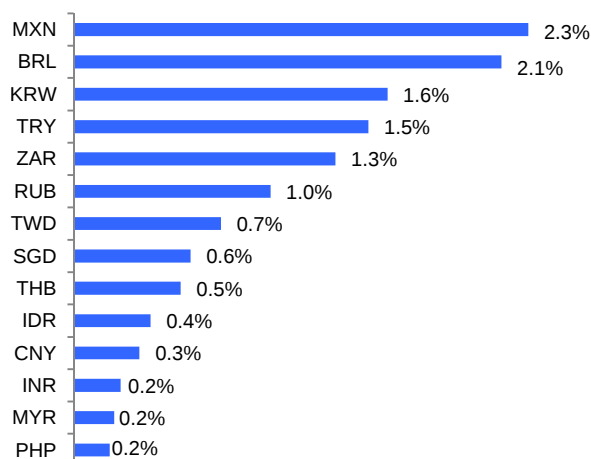
今週のエマージングマーケット

今週の新興国通貨は上昇

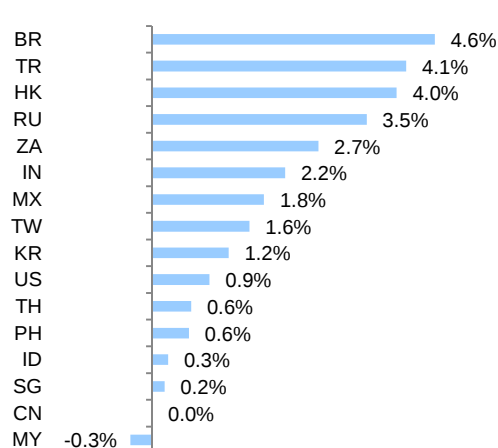
今週の新興国通貨は上昇した。週初 10 日、先週末に発表された米 6 月雇用統計において平均時給が市場予想を下回ったことなどを背景にドルが弱含むと新興国通貨は堅調に推移。11 日、ウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁のタカ派寄りの発言を受け米金利が上昇すると新興国通貨は値を下げた。しかし、米大統領選挙中にトランプ米大統領の長男がロシア人弁護士と面会したと報じられると反発。さらにブレイナード FRB 理事が追加利上げに慎重な発言をしたことを背景にドル安が進む展開に新興国通貨は急上昇した。12 日、イエレン FRB 議長による議会証言では「インフレ見通しは不確実性を伴う」との文言が注目され、ドル売りの動きが強まり新興国通貨は急伸した。13 日、材料が乏しい中、前日の流れを引き継ぎ新興国通貨は堅調に推移した。

個別通貨をみると、MXN(+2.3%)は米国が北米自由貿易協定(NAFTA)の見直し交渉で強硬な要求をしないとの見方が広がったことなどを背景に上昇。労働改革法案が上院で承認されたことが好感され BRL(+2.1%)は買い進まれた。KRW(+1.6%)は株式市場への資金流入を受けて上値を切り上げた。(大島由喜)

エマージング通貨騰落率(対ドル)



エマージング株式騰落率



(注) US: 米国 S&P500 種指数、CN: 中国上海総合指数、HK: 香港ハンセン指数、IN: インド SENSEX30 種指数、ID: インドネシアジャカルタ総合指数、KR: 韓国総合株価指数、MY: マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス、PH: フィリピン総合指数、SG: シンガポール ST 指数、TW: 台湾加権指数、TH: タイ SET 指数、RU: ロシア RTS 指数、ZA: 南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数、TR: トルコイスタンブールナショナル 100 種指数、BR: ブラジルボベスパ指数、MX: メキシコボルサ指数

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

エマージングマーケット短期見通し

BOC が利上げ。FRB に次いで
政策正常化に着手

過去 1 か月余り、先進国の中央銀行がタカ派に傾斜する動きが目立ち、市場の中心テーマとなってきた。例えばカナダ銀行（中央銀行、BOC）は、6 月 12 日にウィルキンス上級副総裁が「成長が継続し、理想的にはさらに範囲を拡げる中で、政策委員会は現在実施しているかなりの金融緩和がなお必要かどうか検討するだろう」と発言したことを皮切りに当局者が相次いでタカ派なメッセージが送り続け、7 月 12 日の金融政策会合で政策金利の翌日物金利の誘導目標を 0.25%ポイント引き上げて 0.75%とすることを決めた（2017 年 7 月 13 日付通貨ニュース「[カナダ：7 月金融政策会合 - 2015 年の予防的利下げの正常化](#)」を参照）。BOC は実に 2010 年 9 月以来、約 7 年ぶりの利上げを決定し、遂に G7 内で FRB に続く金融政策正常化に着手する中央銀行が現れている。

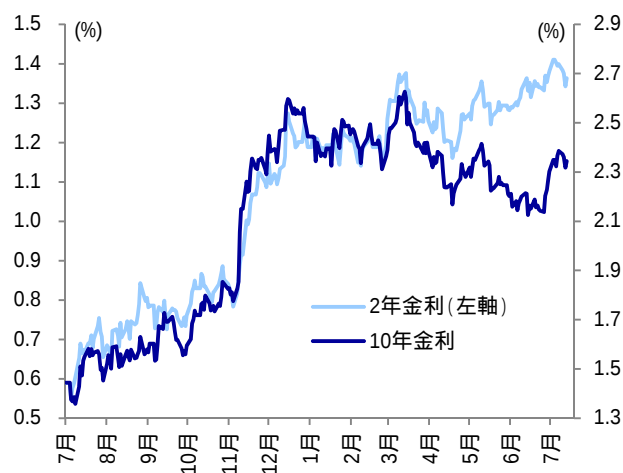
相次ぐ中央銀行のタカ派化

金融政策スタンスをハト派からタカ派に変更する中央銀行が日増しに増えているように見えるが、ECB もその 1 つである。6 月 27 日にポルトガルで開催された ECB 年次総会では、ドラギ総裁が「景気回復が続く中、政策スタンスの基本はより順応的なものとなる。中央銀行（ECB）は政策手段のパラメーターを調整することで景気回復に対応することが可能である。この際、政策スタンスを引き締めることが目的ではなく、ほぼ同じに維持することが狙いである」と発言。また「すべての兆候はユーロ圏の景気回復の強まりと拡がりを示している。デフレ圧力はリフレ圧力に変わった」と述べた。この ECB 年次総会が開催された前後では、イングランド銀行（中央銀行、BOE）や BOC など多くの当局者が言い合わせたかのように一斉にタカ派なメッセージを発信しており、中銀銀行の金融政策正常化に意欲を示す姿勢が非常に際立つ地合いであった。

BIS は金融緩和の巻き戻し加速
を主張

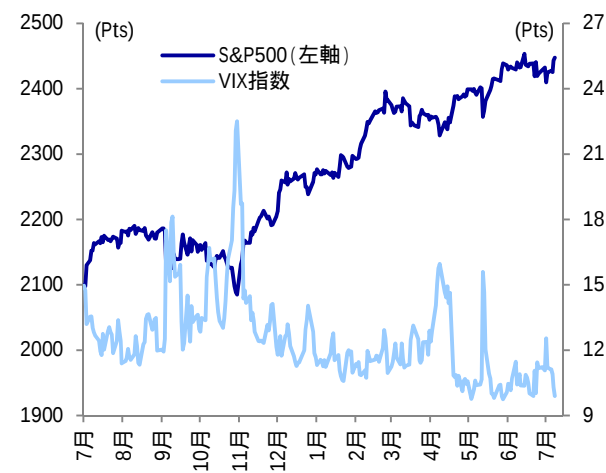
国際決済銀行（BIS）はこれに先立つ 6 月 25 日に公表した年次報告書において、高水準の債務や生産性の低い伸び、政策効果の低下など一部で

図表 1: 米国債利回りの推移(過去 1 年間)



(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 米株と VIX 指数の推移(過去 1 年間)



(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

スクが残るものの、政策当局は景気見通しが改善する一方でそうした改善が意外なほどにインフレに影響していない状況を好機ととらえ、量的緩和と歴史的低金利の大いなる巻き戻しを加速するべきとの見解を示している。BISによる主要国の中央銀行は金利の引き上げを進めるべきとの主張が最近の動きに影響を及ぼしているのか、それとも偶然の一致なのかは定かではない。また、インフレが目標を下回る状況が続くなど、多くの国では実際に観察されるデータは金融緩和策の解除の必要性を示唆しておらず、データに基づかない正常化が正しいかどうかは議論の余地があるだろう。しかし、これまで孤高の正常化路線をまい進していたFRBに各国中銀が追随し始めた可能性があることは金融市場にとって重要である。これまでは正常化路線に先行するFRBとその他の中銀の金融政策の方向性の違いがドル高をもたらしてきた。また、FRBの正常化が進展するかどうかで市場は大きく振られてきたが、今後は遅れをとっていた他の中央銀行が正常化を進めるか否かというファクターがこれまでよりも影響力を増すことになりそうだ。

ECBは9月に来年からのテーパリング開始を示唆か

昨日は米紙ウォール・ストリート・ジャーナル（WSJ）が、ECBは9月7日の政策理事会で来年から資産買い入れを段階的に縮小する方針を示唆する公算が大きいと報じている。ドラギ総裁は8月に米ワイオミング州ジャクソンホールで開かれる年次経済シンポジウムで3年ぶりに講演を行う予定となっている。前回はECBの大規模な資産買い入れ実施に向けた地ならしを行った経緯があり、今回はその縮小に向けた準備を施す可能性が意識される。来週20日に開催する政策理事会では市場の行き過ぎた期待をけん制するために、ハト派色を意図的に強めてくる可能性があるものの、しばらくはECBの正常化に市場の関心が集まるだろう。

過去数週間、G10通貨は対ドルで上昇も、新興国通貨はまちまち

6月27日以降、G10通貨は円を除く全ての通貨が対ドルで上昇している。一方で、新興国通貨の値動きはまちまちである。これは、新興国市場は先進国の金利上昇、中でも米国の長期金利の上昇に脆弱であることが影響しており、先進国の中央銀行が金融政策の正常化に踏み出そうとする中で各国金利が上昇したことが新興国通貨の重荷となっている。

ユーロ高に連れた東欧通貨の上昇は継続か

この間、ZARは南アフリカ準備銀行（中央銀行、SARB）の独立性への懸念が増大すると大幅に下落し、TRYやRUBなども軟調な動きとなった。アジア通貨は概ね横ばいであった。こうした状況で堅調が目立ったのがHUF、CZK、PLNといった東欧通貨である。欧州連合（EU）加盟国でありながら通貨ユーロを導入していないハンガリーやポーランドなどの通貨はユーロとの連動性が極めて強い。これらの通貨は基本的にユーロに歩調を合わせて動くため、米国の金利が上昇する局面であっても、ECBのタカ派化に伴うユーロ上昇に連れ高となっている。ドルの下落トレンドが続く中でも新興国通貨は上値の重さを感じられるが、ECBの次の一手に市場の目が向く中、ユーロ高地合いが継続するならば東欧通貨も堅調を維持しそうだ。（多田出健太）

インドネシア：金融政策決定会合プレビュー

コア CPI 減速を受け、BI は政策金利を据え置きか

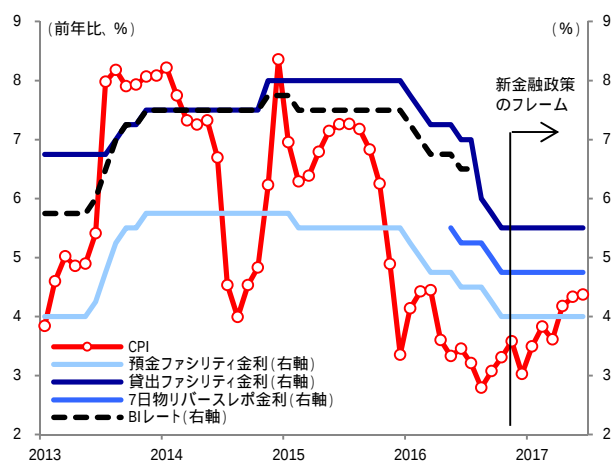
インドネシア中央銀行（BI）は 20 日（木）に開催する金融政策決定会合で、政策金利の 7 日物リバースレポレートを 4.75% に据え置くと予想する。前回会合（6 月 16 日）の声明文では、FRB のバランスシート縮小、英総選挙で与党保守党の獲得議席数が過半数割れとなったこと、原油を筆頭とした商品価格の下落を景気下振れリスクとして指摘した。国内では管理価格の調整に伴う物価上昇リスクを挙げている。インドネシアの金融市場において FRB の利上げは織り込み済みで、マクロ経済運営の明るい展望と良好な国内経済を背景に国内市場は安定するとした。金融政策スタンスは引き続き中立とし、「インフレ期待がコアインフレへの圧力となる兆候がない限り、われわれは政策スタンスを変えない」と述べた。6 月の消費者物価指数（CPI）は前年比+4.4%と 5 月（同+4.3%）から加速したが、コア CPI は同+3.1%と 5 月（同+3.2%）から減速するなどインフレ率は落ち着く兆しがあるため、BI は現状の金融政策を維持するだろう。（大島由喜）

南アフリカ：金融政策決定会合プレビュー

ZAR 下落を懸念し、SARB は政策金利を据え置きか

南アフリカ準備銀行（中央銀行、SARB）は 20 日（木）に開催する金融政策決定会合において、政策金利を 7.00% に据え置くと予想する。前回会合（5 月 25 日）の声明文では、弱い消費者マインド、高い税負担、改善しない雇用情勢を背景に消費は低迷するとの見方を示した。また、ソブリン格付けの引き下げが政府および民間企業の資金調達コスト増加をもたらすため、投資は減速する公算が大きいとし、向こう 3 年の GDP 成長率の予測値を引き下げた。物価に関しては、景気低迷、原油価格の下落、および電気料金の伸び幅が想定より下回ったことを受けて、2017 年の予測値を引き下げた。もっとも、インフレ

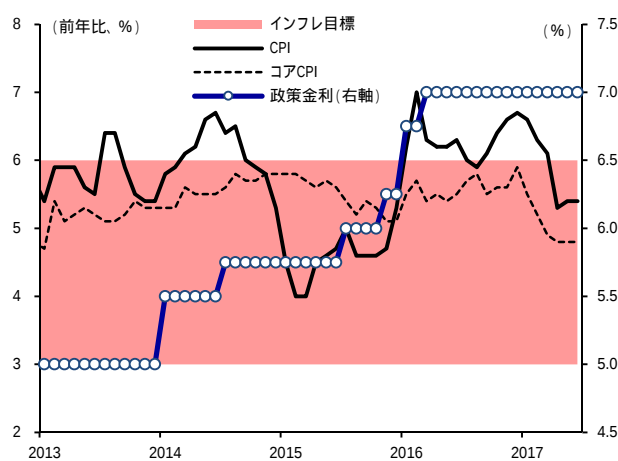
図表 3：インドネシア 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(注) 7 日物リバースレポ金利は 2016 年 5 月から発表が開始され、8 月から正式に政策金利として採用された

(資料) インドネシア中央銀行、インドネシア中央統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4：南アフリカ 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料) 南アフリカ準備銀行、南アフリカ統計局、CEIC、みずほ銀行

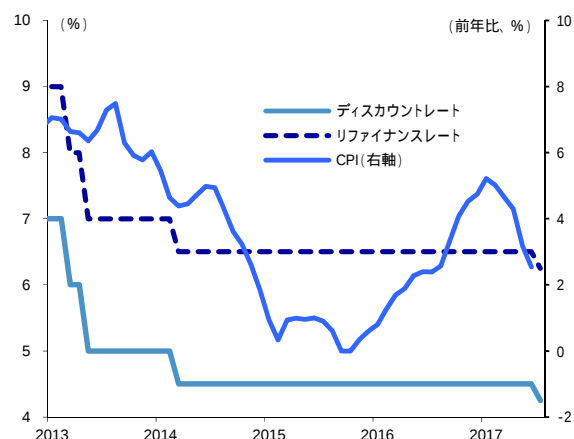
率の上振れリスクは大きく、政策金利の据え置きが適切としている。具体的に SARB は電気料金の大幅引き上げや、ZAR 下落をリスク要因に挙げている。特に ZAR に対する見方は弱気であり、経常収支の悪化や政治情勢の混乱を背景に下落する懸念は強いとしている。6 月製造業 PMI は 46.7 と景況判断の分かれ目である 50 を下回るなど景気低迷は続いている。一方で、5 月 CPI は前年比+5.4%と SARB の目標 (+3~6%) 内で安定推移しており、足許の経済情勢だけを踏まえれば利下げの余地は大きい。しかしながら、先月に護民官 (オンブズマン) が SARB の政策目標である「通貨の保護」を削除するように提言したことが嫌気され、ZAR は 12.6 台から 13.0 近辺まで下落。さらに先進国における金利上昇を受けて、資金調達コスト増加に対する懸念が強まり、ZAR は一時 13.6 近辺まで売り込まれるなど軟調に推移している。かかる状況下、SARB は ZAR の下押し圧力が強まることを避けるため、現状の金融政策を維持するだろう。(佐々木貴彦)

ベトナム: SBV が利下げを発表

SBV は 2014 年 3 月以来となる利下げを実行

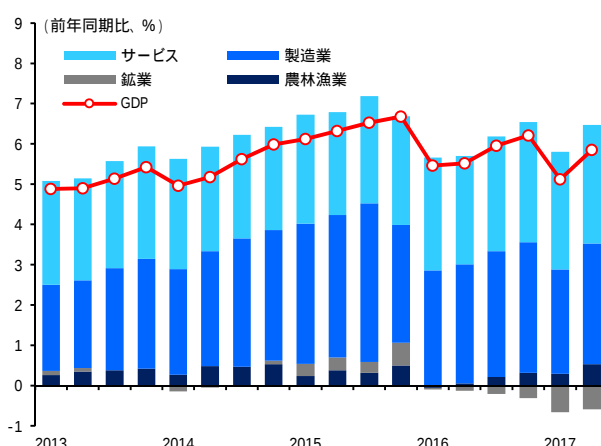
7 日夜にベトナム国家銀行 (中央銀行、SBV) は主要政策金利であるリファイナンスレート (6.50% → 6.25%) およびディスカウントレート (4.50% → 4.25%) を 10 日から 25bp 引き下げると発表した。利下げは 2014 年 3 月以来となる。5 月に SBV のフン総裁は現状の金利水準は適切であると述べ、6 月にホン副総裁もインフレ率の抑制が SBV の優先事項と発言していたため、利下げの発表はサプライズだった。ベトナムの 1~6 月期 GDP は前年同期比+5.7%と政府目標 (+6.7%) を大きく下回るも、フック首相は目標達成に向けて強い意欲を示した。しかしながら、政府の公的債務残高は国会で設定した上限を超えており、財政出動は困難な状態に置かれていた。かかる状況下、6 月 CPI が前年比+2.5%と 1 月 (同+5.2%) から大幅に減速したことも踏まえ、SBV は景気浮揚を図るため利下げを決断した模様だ。

図表 5: ベトナム 主要政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料) ベトナム国家銀行、ベトナム統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 6: ベトナム 実質 GDP 成長率



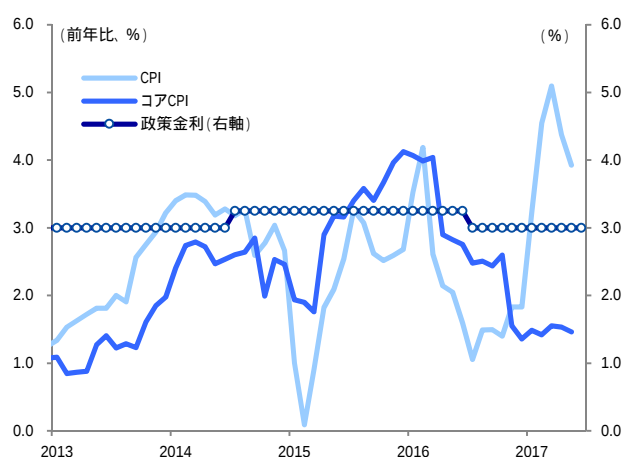
(資料) ベトナム統計局、CEIC、みずほ銀行

1～5月期における与信の伸びは前年末比+6.5%と過去2年で最速のペースで拡大するなど、SBVは既に与信抑制から促進方向に政策を転換していた。それに伴い消費を中心にベトナム経済は加速しており、今回の利下げを受けてペースは速まると考える。なお、利下げ発表前日の6日にIMFは与信の拡大に伴い不良債権が増大する恐れがあるため、政策金利を据え置くべきとの見解を示していた。ベトナムは2011年に不良債権問題が深刻化し、債権回収会社（VAMC）を立ち上げ不良債権の買い取りを進めた。その結果、15%以上と言われていた不良債権比率は2.6%（2017年3月末時点）まで低下した。政府は同比率を3%以下に抑えるとしているため、不良債権比率が上昇するようであればSBVは金融政策スタンスを変更するだろう。（佐々木貴彦）

インド：6月CPI上昇率は2%を下回る

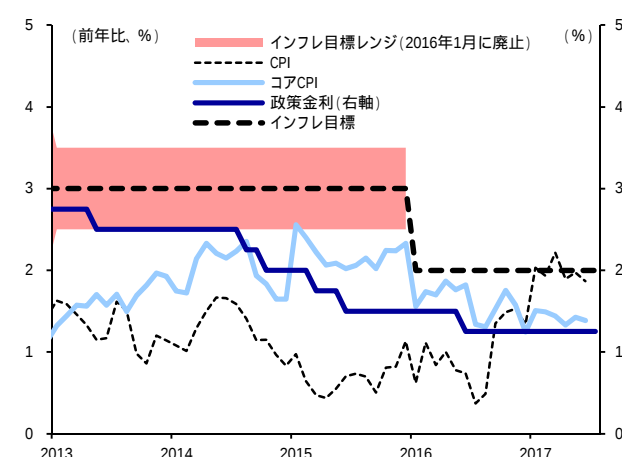
6月CPIの結果を受けて8月MPCの判断は一段と困難に
6月の消費者物価指数（CPI）上昇率は前年比+1.5%と、5月の同+2.2%からさらに減速し、インド準備銀行（中央銀行、RBI）のインフレ目標（4%±2%）の下限を下回っている。6月のMPCでは現状維持の政策決定に対し5対1と票が割れたが、その後発表されたCPIが2か月連続で予想を下振れたことで、利下げを主張した外部委員のドラキア教授に賛同する委員が出てくる可能性がある。結果は依然として微妙であるが、RBIは政策金利を据え置くと考えたい（2017年7月14日付通貨ニュース「[インド：6月CPI上昇率が2%を下回り、8月MPCの判断は一段と難しい情勢に](#)」を参照）。（多田出健太）

図表7：マレーシア 政策金利と消費者物価指数(CPI)



（資料）マレーシア中央銀行、マレーシア統計庁、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表8：韓国 政策金利と消費者物価指数(CPI)



（資料）韓国中央銀行、韓国統計庁、CEIC、みずほ銀行

マレーシア：金融政策決定会合レビュー

インフレ圧力の緩和を背景
に政策金利を据え置き

マレーシア中央銀行（BNM）は 13 日に金融政策決定会合を開催し、政策金利を 3.00% に据え置きした。声明文では、世界経済は堅調に回復しており、アジア経済は国内活動と堅調な外需によって成長が見込まれるとした。一方、リスクとして先進国の不透明な政治情勢や、地政学と金融市場の不安定化や商品価格の急激な変動を挙げている。マレーシア経済は 1～3 月期は内需と強い輸出により予想より好調となる一方、インフレ圧力は国内の燃料価格の下落を背景に和らいだとし、インフレ率は年後半も減速するとの見通しを示した。金融政策スタンスは現行の政策金利水準において緩和的であり、経済活動を下支えていると述べている。経済が回復する中、インフレ圧力も後退しているため、BNM は当面政策金利を据え置くだろう。（大島由喜）

韓国：金融政策決定会合レビュー

BOK は成長率の見通しを上
方修正

韓国中央銀行（BOK）は 13 日に金融政策決定会合を開催し、政策金利を 1.25% に据え置いた。声明文では、韓国経済の先行きについて、外需の持ち直しや設備投資の回復ペースが前回予想時点（4 月）より速く、今年の成長率は予測値を上回るとの見方を示した。インフレ率に関しては、原油価格や農産品価格が上昇する可能性はあるものの、目標（前年比+2.0%）近辺で推移するとした。会合後の記者会見で李 BOK 総裁は、2017 年成長率の予測値を+2.6% から+2.8% に上方修正すると発表。文政権が策定している補正予算が成立すればさらに上振れると述べた。補正予算を巡っては与野党間で攻防が続いており、成立の目処は立っていない。しかしながら、物価が安定推移する中、補正予算が成立しなくとも景気は底堅さを保つ公算が大きいと、BOK は現状の金融政策を当面維持するだろう。なお、足許の文政権は国内よりも国外で大きな課題を抱えている。12 日、米通商代表部（USTR）は米韓自由貿易協定（FTA）の見直しに向けた協議の開始を韓国政府に要求した。今後は韓国国内市場の更なる開放が求められる見込みだ。また、中国は地上配備型ミサイル迎撃システム（THAAD）の配備撤回を求めており、韓国製バッテリーを搭載した電気自動車を補助金給付対象から除外するなど、実質的な報復措置を行っている。こうした米中からの圧力が韓国経済の下振れリスクとなりそうだ。（佐々木貴彦）

エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
7月10日 (月)	中国	消費者物価指数(前年比)	1.6%	1.5%	1.5%	--
10日 (月)	中国	生産者物価指数(前年比)	5.5%	5.5%	5.5%	--
11日 (火)	フィリピン	貿易収支	-\$1500m	-\$2753m	-\$2052m	-\$1754m
12日 (水)	韓国	失業率(季調済)	3.7%	3.8%	3.6%	--
12日 (水)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	4.1%	4.6%	4.2%	--
12日 (水)	シンガポール	小売売上高(前年比)	2.2%	0.9%	2.6%	2.7%
12日 (水)	中国	M2(前年比)	9.5%	9.4%	9.6%	--
12日 (水)	中国	新規貸出(人民元)	1300.0b	1540.0b	1110.0b	--
12日 (水)	インド	消費者物価指数(前年比)	1.6%	1.5%	2.2%	--
12日 (水)	インド	鉱工業生産(前年比)	2.0%	1.7%	3.1%	2.8%
13日 (木)	韓国	韓国銀行7日間レート	1.25%	1.25%	1.25%	--
13日 (木)	中国	貿易収支	\$42.60b	\$42.80b	\$40.81b	\$40.79b
13日 (木)	マレーシア	BNM翌日物政策金利	3.00%	3.00%	3.00%	--
14-17日	インド	輸出(前年比)	--	--	8.3%	--
14-17日	インド	輸入(前年比)	--	--	33.1%	--
14日 (金)	シンガポール	GDP(前年比)	2.7%	--	2.7%	--
17日 (月)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	--	--	-1.2%	--
17日 (月)	中国	小売売上高(前年比)	10.6%	--	10.7%	--
17日 (月)	中国	鉱工業生産(前年比)	6.5%	--	6.5%	--
17日 (月)	中国	GDP(前年比)	6.8%	--	6.9%	--
17日 (月)	フィリピン	海外送金(前年比)	--	--	-5.9%	--
17日 (月)	インドネシア	貿易収支	--	--	\$474m	--
19日 (水)	韓国	生産者物価指数(前年比)	--	--	3.5%	--
19日 (水)	マレーシア	消費者物価指数(前年比)	--	--	3.9%	--
19日 (水)	フィリピン	総合国際収支	--	--	-\$59m	--
中東欧・アフリカ						
7月10日 (月)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	5.0%	3.5%	6.7%	--
11日 (火)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	-2.5%	-0.8%	-4.1%	-4.2%
11日 (火)	ロシア	経常収支	3200m	-300m	23300m	--
13日 (木)	トルコ	経常収支	-4.98b	-5.24b	-3.62b	-3.60b
17日 (月)	トルコ	失業率	--	--	11.7%	--
17-18日	ロシア	鉱工業生産(前年比)	3.5%	--	5.6%	--
19日 (水)	南ア	CPI(前年比)	5.2%	--	5.4%	--
19日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	--	--	1.5%	--
19日 (水)	ロシア	失業率	5.1%	--	5.2%	--
19日 (水)	ロシア	実質賃金(前年比)	3.5%	--	3.7%	--
19日 (水)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	1.1%	--	0.7%	--
20日 (木)	南ア	SARB政策金利発表	7.00%	--	7.00%	--
ラテンアメリカ						
7月12日 (水)	ブラジル	小売売上高(前年比)	3.0%	2.4%	1.9%	1.7%
12日 (水)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	0.3%	1.0%	-4.4%	-4.2%
17日 (月)	ブラジル	FGVインフレ率IGP-10(前月比)	--	--	-0.6%	--
20日 (木)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	--	--	0.2%	--
21日 (金)	メキシコ	失業率	--	--	3.6%	--
21日 (金)	ブラジル	経常収支	--	--	\$2884m	--

(注)2017年7月14日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
(資料)ブルームバーグ

エマージング通貨相場見通し

		2017年 1～6月(実績)	SPOT	2017年 9月	12月	2018年 3月	6月	9月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.7622 ~ 6.9640	6.7835	6.85	6.90	7.00	7.00	7.00
香港ドル	(HKD)	7.7531 ~ 7.8088	7.8095	7.80	7.78	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	63.931 ~ 68.388	64.445	65.5	66.0	64.5	64.0	63.5
インドネシアルピア	(IDR)	13236 ~ 13496	13348	13000	12850	12800	12600	12500
韓国ウォン	(KRW)	1110.52 ~ 1211.78	1136.38	1130	1120	1110	1100	1090
マレーシアリング	(MYR)	4.2505 ~ 4.5002	4.2922	4.15	4.10	3.95	3.85	3.70
フィリピンペソ	(PHP)	49.264 ~ 50.624	50.540	49.0	48.4	48.3	47.5	47.0
シンガポールドル	(SGD)	1.3709 ~ 1.4547	1.3743	1.41	1.38	1.37	1.36	1.35
台湾ドル	(TWD)	29.929 ~ 32.447	30.362	30.30	30.10	29.90	29.80	29.70
タイバーツ	(THB)	33.81 ~ 36.01	33.94	33.7	33.4	33.3	33.0	32.8
ベトナムドン	(VND)	22528 ~ 22846	22729	22750	22650	22650	22400	22280
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	55.7038 ~ 61.7190	59.9079	60.00	62.00	64.00	62.00	60.00
南アフリカランド	(ZAR)	12.3126 ~ 13.9810	13.2170	13.50	14.00	13.50	13.00	13.00
トルコリラ	(TRY)	3.4754 ~ 3.9415	3.5660	3.60	3.70	3.80	3.90	3.80
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	3.0413 ~ 3.4109	3.2116	3.36	3.40	3.43	3.45	3.48
メキシコペソ	(MXN)	17.8090 ~ 22.0385	17.6937	18.50	19.00	19.00	18.50	18.00
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	15.711 ~ 17.031	16.716	15.91	15.51	15.14	15.00	14.86
香港ドル	(HKD)	13.911 ~ 15.291	14.507	13.97	13.75	13.66	13.53	13.40
インドルピー	(INR)	1.651 ~ 1.783	1.758	1.66	1.62	1.64	1.64	1.64
インドネシアルピア	(100IDR)	0.815 ~ 0.880	0.849	0.838	0.833	0.828	0.833	0.832
韓国ウォン	(100KRW)	9.461 ~ 10.201	9.958	9.65	9.55	9.55	9.55	9.54
マレーシアリング	(MYR)	24.550 ~ 26.357	26.350	26.27	26.10	26.84	27.27	28.11
フィリピンペソ	(PHP)	2.181 ~ 2.377	2.239	2.22	2.21	2.19	2.21	2.21
シンガポールドル	(SGD)	77.55 ~ 81.78	82.43	77.30	77.54	77.37	77.21	77.04
台湾ドル	(TWD)	3.563 ~ 3.784	3.731	3.60	3.55	3.55	3.52	3.50
タイバーツ	(THB)	3.150 ~ 3.322	3.338	3.23	3.20	3.18	3.18	3.17
ベトナムドン	(100VND)	0.4756 ~ 0.5213	0.4985	0.48	0.47	0.47	0.47	0.47
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.838 ~ 2.024	1.892	1.82	1.73	1.66	1.69	1.73
南アフリカランド	(ZAR)	7.897 ~ 8.978	8.567	8.07	7.64	7.85	8.08	8.00
トルコリラ	(TRY)	28.620 ~ 33.476	31.752	30.28	28.92	27.89	26.92	27.37
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	32.573 ~ 37.450	35.281	32.44	31.47	30.90	30.43	29.89
メキシコペソ	(MXN)	5.164 ~ 6.317	6.402	5.89	5.63	5.58	5.68	5.78

(注)1. 実績の欄は2017年6月30日まで。SPOTは7月14日の7時頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。4. 見通しの値は「Emerging Market Monthly(7月3日発行)」及び「中期為替相場見通し(6月30日発行)」に基づく
(資料)みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。